

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング
科目名称 [英語名称]	子どもの野外レクリエーション [Outdoor Recreation for Children]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	750056	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	遠藤 晃 藤本朋美,FC教員			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3)		
授業概要	<p>大自然の中での活動を通して、子供達は創造力、協調性、問題解決能力、コミュニケーション能力、身体能力など、様々な「生きる力」を身につけることができる。このような自然の教育力を活かすセンスやスキルを身につけることで、必ずしも山や海などの大自然の中でなくても、校庭、公園など身近な自然を教育の場とした、子供達の心身の発達のための教育プログラムを立案・実践することが可能となる。</p> <p>この授業では「子どもと自然」「環境問題入門」などの講義で得た自然を活用した教育に関する知識や体験をプログラム化し、実践する際に必要となる知識とスキルを習得する。</p>						
関連する科目	<p>事前:「子どもと自然(必修)」「環境問題入門」「食と農業」「保育原理」「保育内容指導法(環境)」 事後:「環境問題演習」「環境教育論」「環境教育演習」「学校ヒオトープ」「自然と昆虫」</p>						
授業の進め方と方法	<p>3日間の集中講義とし、室内で理論や知識などを習得し(座学)、大学構内やフィールドセンターで、自然のなかでの活動を受講者自身が楽しみ、実感しながら(活動)、知識やスキルとそれを活用した教育に関する知識・技術を実践的に習得していく。</p>						
授業計画	<p><1日目> 講義室、大学構内 no01: 自然の教育力 / 「子どもと自然」を振り返る、考案したプログラムの実践にむけて no02: 自然体験活動の意義とプログラムのモデル / Project Wild、Project Wet、MARE* など紹介 no03: 自然を活用したプログラム1 / 自然と触れ合うプログラムについて no04: 自然を活用したプログラム2 / 自然を理解するプログラムについて no05: 新しいネイチャーゲームの創造、本日のまとめ</p> <p><2日目> 講義室、大学構内およびフィールドセンター no06: 野外活動の安全管理 / リスクとリスクマネジメント no07: ロープワークの基本 / テント設営、野外クッキング(野草、ハーブの活用) no08: ロープを使った遊び 1 / ブランコ作り、投げ縄ほか no09: ロープを使った遊び 2 / ツリクライミング no10: ロープを使った遊び 3 / 新しい遊びの創造、本日のまとめ</p> <p><3日目> 講義室、大学構内 no11: 野外の歩き方 1 / 地図・地形図の読み方、コンパス・GPSの使い方 no12: 野外の歩き方 2 / オリエンテーリング(身近な植物探し) no13: 野外レクのプランニング 1 no14: 野外レクのプランニング 2 no15: 野外レクリエーション体験、まとめ</p>						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の教育力についての知識を習得し理解を深める ・教育への活用方法を習得する ・習得した知識とスキルを使い、子ども向けの自然プログラムを企画立案と実施ができる ・野外活動におけるリスクとリスクマネジメントに関する知識とスキルを習得する 						
授業時間外の学修	<p>毎回の講義毎に、座学については講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめて文章として記録し、体験活動については活動内容の詳細を記録する(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。</p>						
課題に対する フィードバック	課題については、随時、解説を行う。	評価方法			最終レポート(30%) 講義への参加状況(関心・意欲・態度、40%) 講義毎のレポート(課題の達成度・理解度等、30%)から総合的に評価する。”		
テキスト	講義毎に資料を配布する						
参考書							
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・天候等によって講義内容・開講日時が変更になることもある。 ・体験活動をする場合は、野外活動に適した格好で参加する。 						